

愛知山労

愛知県勤労者山岳連盟
機関紙

2011年4月22日発行
No. 462 (第43期02号)
〒454-0055

名古屋市中川区十番町2-8 栄和産業(株)ビル2F

TEL/FAX 052-654-1210

<http://aichirousan.web.fc2.com/>



第43期県連登山学校スタート (4月16日豊田市・南山で)

《目次》

巻頭言	事故のない登山活動を	2
案内	第39回鈴鹿山系清掃登山	3
教育部	第1回教育担当者会議を開催しました	4
自然保護部	清掃登山実行委員会報告(第1回、第2回)	
遭対部	第1回遭対部担当者会議を開きました	6
	夏合宿前のトレーニングに位置付けましょう!	8
	無雪期救助訓練、救急法講習会案内	
	春山合宿遭対連絡会議を開きました	10
組織部	3月24日、第1回組織担当者会議を開きました	12
婦人部	「第1回女性のつどい」を開催しました。	15
スケジュール		16

巻頭言

事故のない登山活動を

理事長 洞井孝雄

福島第一原発の事故の対策は一向に進まず、危険度は、チェルノブイリと同じレベル7まで引き上げられました。周辺住民だけでなく、日本中が不安の中にあります。あの東日本大震災から一ヶ月以上が経過しました。現在もなお余震が続く被災地では、懸命な復興作業がおこなわれています。「がんばろう日本」を合言葉に、全国から物資や義援金が寄せられ、ボランティアの支援状況もさまざまなメディアで伝えられています。できる限りできる限りの支援をしていきたいものです。

さて、先日、春山合宿遭対連絡会議が開かれました。昨今、出席する山岳会数や提出される計画数が減少してきていますが、震災の影響もあるのでしょうか、例年にも増して提出された計画書の数が少ないように思われました。提出された計画の検討を進めていく中で、一二、気になる点がありました。

ひとつはロープの携帯の問題です。残雪期の北アルプスに入る計画書の中に、「個人装備にはカラビナとスリングが挙げられているのに、共同装備にはロープ類が挙げられていないのはなぜか？」という質問が出されました。質問の意味は、カラビナとスリングは、ロープなどと合わせて使うことで、はじめて持参する意味のある装備だがロープなしでどのように使うつもりか、ということと、この時期にこの山域にはいるのに、万一の対策としてロープを携行する必要があるのではないか、ということでしたが、「今回はロープは持っていない。必要とところが出てきたら引き返してきます」という答えでした。ロープを、目標とする山に登る道具として位置づける場合もちろんありますが(それとても多くは、身を守るための道具です)、ここで問題にされたのは万一の際に必要な安全対策(「使わないことが望ましい」ことを前提にして)として持参することの有無でした。これは登山者の見識の問題でもあります。

もうひとつは、遭対特別基金の問題です。計画書に記入されているメンバーの遭対基金の口数が、多くて5口、少ない人で1口というところがあり、このことについて、「昨年、(あなたの会で)骨折事故でへりで救出された人も1口だったが、そういうことについて会ではどういう話がされているのか？」という質問がされました。「事故が起きたときの始動のためのお金は会で積み立てている。遭対基金については、個人の問題なので会員に強制はできない。遭対基金の説明をして入った方がいい、と言っはいる」という返事でした。一見、会員の意志を尊重しているようですが、会として事故が起きた場合、それにかかわる費用や対応などについて会ではどのようにとらえ、どうしていこうと考えているか、ということについての答えにはなっていません。事故が起きた際の始動資金の話ではないし、大きなお世話ということになるかも知れませんが、「会としての位置づけ」を明らかにすることは山岳会の責任として、あるはずで、これらは、みなさんにもぜひ、考えてほしい問題です。

この時期、「山登りなんかしている場合か」という声も出そうです。それだけに一層、事故のない登山活動を続けていくことが求められています。

実り多い春山合宿を終えて、元気な顔で集まりましょう。

案内

第39回鈴鹿山系清掃登山

御在所岳・藤原岳

2011年6月5日(日)

主催：三重県勤労者山岳連盟
愛知県勤労者山岳連盟

後援：三重県・いなべ市・菰野町
御在所ロープウェイ株式会社

“自然を愛するみなさんへ”

三重県、愛知県勤労者山岳連盟が毎年6月の第一日曜日に鈴鹿山系清掃登山をおこなっています。

私たちの愛する山からゴミを無くし、かけがえのない大切な美しい自然を守り育て、そして次世代に残すための第一歩として、午前中はそれぞれのコースから山頂を目指して汗を流しながら、自然の素晴らしさを満喫し、午後からは山頂集会后、登山道に捨てられているゴミを拾いながら下山します。

この様な1日を、私たちと一緒に過ごしましょう。

※ 尚、山頂受付では署名だけの参加も受け付けています。

	御在所岳	藤原岳
11:00	山頂朝陽台にて受付	9合目避難小屋前にて受付
12:30	各山域にて集会を行います	
13:00	各コースに分かれて清掃下山	
16:00	ロープウェイ山麓駅駐車場にてゴミ集計	西藤原小学校下の駐車場にて ゴミ集計

☆御在所岳(朝陽台広場)にて参加受付をしています。

☆藤原岳(9合目避難小屋前)にて参加受付をしています。

【交通アクセス】

(御在所岳)

近鉄名古屋駅 7:31→(近鉄四日市駅乗り換え)→近鉄湯の山駅

三交バス→湯の山温泉(9:00頃)

(藤原岳)

近鉄名古屋駅 7:41→(富田駅にて三岐鉄道に乗り換え)→西藤原駅(9:01)

☆山頂にてお待ちしております。

教育部

第1回教育担当者会議を開催しました

4月12日(火)19時30分から県連事務所で第1回教育担当者会議を開きました。

【出席者】岸部(若駒) 星野(ふわく) 伊藤(犬山マップ) 鶴野(ASC) 板津(HFMC) 島(じねんじょ) 鷹見・馬嶋(あつた) 白鳥(くらら) 8山岳会9名

はじめに各会の担当者の自己紹介の後、以下の議題を討論しました。

1. 各山岳会、年間の活動計画の趣旨と日程を確認しました(未定の所は、次回までに作成提出して下さい)。
2. 山岳会の存在意義・各山岳会の特色を認識して活動を表現する(山登りの技術・技能・思想等を継承していく。使える技術・考える技術他、山岳会の会員を意識した山行を実践)。
3. 会の活性化—HP・メーリングリストの活用(普段の想い・要望・疑問など発言できる場とする)。
4. 登山学校の経過報告
第43期登山学校の理論3(机上)が終了したところ
16日・17日と南山で第一回目の実技が始まります。

自然保護部

第一回清掃登山実行委員会

2011年 3月31日

【出席者】岸部(若駒) 服部(ふわく) 水本(犬山) 奥村・佐藤(あつた) 北川・成田(くらら) 吉川・石田(同志会) 鈴木(じねんじょ) 板倉(アリス) 加藤・矢倉(半田F) 加藤(ASC) 長尾(みどり) 12山岳会15名

1. 第39回鈴鹿山系清掃登山の具体化

① 自治体交渉の報告——三重県、いなべ市、菰野町に協力要請に出向いた。

三重県、いなべ市は例年通りの協力とのこと。菰野町からは軍手などの資材の提供ができない、と申し出があった。御在所ロープウェイ株式会社より、ゴミの集積場所の変更の話があった。

② 実施要綱について——実施要綱を確認した。これを基本に各会での会報・機関誌などで広報してもらい、会員の日程に入れてもらうこととした。

③ ポスターの件——同志会、半田Fに依頼して13日までに作成する。

ポスターは手分けして各登山用品店、山小屋などに掲示してもらい、また、各会の宣伝用に使います。

④ 参加確認の件——

県連総会では各会の会員数の過半数の参加を提起したが、全体としての目標は各会として、愛知県連各会からの参加目標として600名とする。これに三重県連、一般参加を含めて昨年以上の参加者を目指す。

⑤ 広報の件。——マスコミ対策については、連休前に記事掲載要請文を各新聞社に送付し、連休後に出向いて掲載の要請を行う。

⑥ 当日の役割分担については次回以降の会議にて打ち合わせる。

⑦ リボンの件——当日の県連からの参加者に、リボンを付けてもらう件は昨年同様とする。各会にてリボンを用意してもらい、右肩に付けてもらう。

⑧ 当日の日程の概要を確認しました。

2. 今後の日程と議題及び手立ての進行予定。(略)

3. その他の自然保護関係、日程の紹介

長野県連主催で立山室堂付近で雷鳥観察会が、5月30日(日)実施されます。

要綱は各会清掃登山実行委員に配布しています。

参加申込は、長野県勤労者山岳連盟自然保護委員会委員長：滝沢氏、

tak@jolie.shinshu-u.ac.jpまで直接行なってください。

第二回清掃登山実行委員会

2011年 4月14日

【出席者】堀田(春日井峠) 森(犬山) 奥村(あつた) 成田(くらら) 吉川・今瀬(同志会) 鈴木(じねんじょ) 千田(半田F) 板倉(アリス) 加藤・喜来(ASC) 野沢(スルジェ) 10山岳会12名

1. 第39回鈴鹿山系清掃登山の具体化

① ポスターの件——同志会、半田Fに依頼して2件作成されました。

ポスターは各登山用品店、山小屋などに掲示してもらうよう、分担しました。依頼先は、登山用品店は駅前アルプス・好日山荘・石井など。ジムはポカラ、キューブ、ピークンなど。また、各会にて公民館など宣伝用に活用してください。

② 参加確認の件——参加目標として600名に見合った各会の参加目標を決める。

③ 広報の件。——マスコミ対策については、連休前に記事掲載要請文を各新聞社に送付し、5月13日(金)に出向いて掲載の要請を行う。

④ 当日の進行、御在所岳・藤原岳について確認しました。

⑤ 山頂アピールについて原案を確認しました。

⑥ リーフレットに掲載する各会の連絡先・住所について変更などがある場合には実行委員会に連絡下さい。

⑦ 資材リストについて確認しました。

2. 今後の日程と議題及び手立ての進行予定。

第三回 5月12日(木)——参加確認。新聞社・マスコミ対策。署名の件。

第四回 5月26日(木)——資材確認。参加確認。

第五回 6月2日(木)——資材搬出。

第39回鈴鹿山系清掃登山 6月5日(日)

第六回 6月10日(木) 反省会

遭対部

第1回遭対担当者会議を開きました

4月1日(金)19:30から県連事務所で、今期第1回の遭対担当者会議を開きました。まず、自己紹介と総会決定から遭対部の位置づけ・役割を確認し、最近の事故1件の報告と討論、直近の日程を確認それから東日本大震災について報告・討論しました。

【出席者】森田(あつた) 大石(アリス) 尾崎(じねんじょ) 加藤(ちんぐるま) 井土(東海) 高士(ありんこ) 佐村(ASC) 山口(同志会) 洞井(半田F) 牛田(低い山) 望月・浦(ふわく) 原田(みどり) 西尾・朝日(くらら) 岸部(若駒) 14山岳会16名。

1. 総会決定から、遭対部のあり方・位置づけを確認しました。

遭対部の活動方針は「事故を未然に防ぐ取り組みを強めるとともに、事故が起きた時の迅速な対応や処置ができる体制の整備、知識・技術の各会への普及を目指す」ことです。そのため下記の通り、6つの課題を掲げています。各課題を成功させなければなりません、それが自己目的ではなくトータルとして事故防止が目的です。

①各会からの主体的参加、出席を。

・担当者として、事故防止のために県連から吸収すること、また提案も積極的に行うこと

が求められます。

②新特別基金について

- ・人工壁で起きた事故については、山岳会からの事故一報に対し、遭対基金管理委員会から「人工壁事故確認書」が送付されてくる。確認書には所属会代表者と施設管理者の氏名・印が必要、計画書は不要。
- ・各会ではジムでの岩登りトレーニングについてどう把握しているか？事故が起きたときだけ唐突に連絡が入って、ジムに行っていたことがわかる、といった状況が出て来ないために、また、同様の事故が起きることをどう防ぐか？
- ・事故一報と併せた山行計画書の提出について（『登山時報』2月号から）
「今後は、事故一報とワンセットで事前に受理した山行計画書のコピーを送付していただくことになる。この変更は次のような理由による。これまでの事例では、申請時に山行計画書の内容に不備があって担当者と何度もやり取りをしたり、計画書提出の確認ができないということもあった。今後はこうしたトラブルを事前に防ぎ、申請の流れをスムーズなものにしたい」

③合宿遭対連絡・報告会議、担当者会議の開催

- ・出席会が増え、問題意識を共有する条件が広がっている。問題は、その内容が各会へどのように伝えられているか？どのように事故防止に生かされているか？「県連、各会とも担当者が創造的、積極的な取り組みをするまでに至っていません。担当者の意識改革がこれからの課題だと考えます。」
- ・各種会議で指摘されたことが、各会でどのように受け止められ、具体化され身を結んで行っているか？

▲留守宅の責任は、どこまで持つのか？という意見に対して。

「単なる留守番ではないこと、然るべき時まで下山連絡がない場合、然るべき手を打つという、会員の命を二重三重に保証する措置だという認識を」

④救助要員の連絡網の整備、日常のネットワークづくり

- ・今期は、連絡網を使って無雪期・積雪期救助訓練に率先して参加するよう要請します。

2. 直近の日程確認(略)

3. 救助隊要員登録について

- ・今期は、各会一定数の入れ替えがあり、準備中。

4. 事故報告No.1

【発生日時】 2011年3月7日(月)9:00頃 【山域・山名】 志賀高原一ノ瀬スキー場
【事故者】 女性 47歳 【負傷の程度】 左膝部内側の靭帯損傷
【概要】 ダイヤモンドグレンデを滑降中、転倒し負傷した。

▲指摘、反省など

- ・若い頃やっていたことが、自信過剰になったのではないか。
- ・リーダーが事故者の技術を、見ていなかった。
- ・年齢を考慮すべき。

5、その他

▲海外登山の山行計画書は、全国連盟・県連盟にそれぞれ提出すること

▲東日本大震災について、直後に被災地でボランティアに参加した会からの報告がありました。「当時は東北道不通、ガソリン不足だったが、主体となった組織が確保。気仙沼市・南三陸町・登米市で、避難所へ支援物資を届ける活動をした。日本人として現場は見ておいた方がいい」という感想が述べられました。

夏合宿前のトレーニングに位置付けましょう！

無雪期救助訓練 6月13日（月）机上・6月19日（日）実技

負傷者の保護、搬出作業を実際に経験することを通して救助技術を身につけるとともに、「事故を起こす」ことがいかに大変かを実感する取り組みです。

夏山合宿を前に、多くの仲間がトレーニング山行と位置付けて参加するよう、各会で参加を組織して下さい。

※机上と実技はセットです。したがって、机上でのみの参加は可能ですが、実技だけの参加は受け付けません。参加費無料、労山会員なら誰でも参加できます。

【机上的讲话】6月13日（月）19:30～県連事務所で。終了後、実技の打ち合わせ。

【実技】6月19日（日）御在所岳・集合9時

【申し込み】①会名②氏名③住所④生年月日⑤労山新特別基金口座⑥血液型⑦電話番号⑧緊急連絡先を明記し、

県連FAX(052-654-1210) e-mail(aichirousan@gmail.com)

または各会理事に申し込んで下さい。

確保技術講習会のお知らせ

日頃、何気なく行っている確保。支点にかかる衝撃を体感することや、その衝撃を制動によって軽減する技術を訓練・習得するなかで、その確保がいかに危険であるかということを知るとともに、確保の大切さを学びます。また、トップが墜落した場合、墜落者を止めた後のセカンドの自己脱出・懸垂下降時の仮固定や宙吊りからの自己脱出など、クライミングを行う上で誰もが身に付けているべき技術についての学習・訓練も行う予定です。

【参加費】2000円(場所代、ロープ代などの消耗費)、机上是無料。

【机上講座】6月20日(月)19:30～ 県連事務所、終了後、打ち合わせ

【実技訓練】6月26日(日) 場所：滋賀県立比良山岳センター・人工登攀壁、雨天決行、前日からの泊可、応相談(要宿泊費)。

【申し込み】

①会名 ②氏名 ③住所 ④生年月日 ⑤労山新特別基金口数 ⑥血液型 ⑦電話番号
⑧緊急連絡先を明記し、県連FAX(052-654-1210)e-mail(aichirousan@gmail.com)まで。

実践的な知識と技術を身に付けましょう！

救急法講習会 6月25日(土)

山行中に怪我や病気になったらどう対処したらいいか？まさかの事態に備え、一人ひとりが落ち着いて対処できる、実践的な知識と技術を学びましょう。

【とき】6月25日(土)10:00～16:00

【ところ】県連事務所

【参加費】1000円

【申込み】各会理事または県連FAX(052-654-1210)。締切りは6月24日(金)

春山合宿遭対連絡会議を開きました

2011年4月15日(金)19:30から春山合宿連絡会議が開かれ、11山岳会17名参加しました。提出された計画書は、10山岳会15通でした(内1山岳会は1計画書をFAXで送付)。

【出席者】沖野(犬山マップ) 洞井・杉浦・近藤(半田F) 河合・堀田・萱津(東三河) 廣田(同志会) 佐々木(春日井峠) 岩田・加藤(じねんじょ) 榊原(ありんこ) 鷹見(あつた) 岸部・足立(若駒) 望月(ふわく) 西尾(くらら)

会議では、以下のような指摘・質問がありました。

- ・立山・奥大日岳をめざす会の個人装備でカラビナ、シュリングを携行することになっているが、共同装備ではザイル、補助ロープは不携行ということが問題になった。会としてどういう考え方か？

→当該のパーティーのリーダーからは、「ザイルを使える人がいないから、そしてもしザイルを使わなければならないところへ来たら、無理しないで引き返す」という回答があったが、「だとすれば、この時期のこの山域へ入るといふ計画そのものに無理があるということではないか」という指摘があった。

- ・「雪崩ビーコン」の数量に対する指摘と合わせて、計画書の装備の数量が明確でない様式

に対する改善についても指摘された。

- ・17名で3パーティーを組んで、同じ山域に入る計画に対して、リーダーとSLの数を増やして、パーティーの前後をがっちり固めること、無線機による連絡体制と万一の対応をきちんと考えること、などの指摘と、この時期のこの山域についての情報収集、アイゼンの携行についての必要性が指摘された。
- ・槍ヶ岳を目指す会のパーティーに遭対基金が1口というメンバーが入っている点が指摘された。事故があった場合に、会としてどう対応するか？という指摘に対して、「一定の始動資金を準備している。基金については、会として強制できない」という返事があった。

春山合宿遭対報告会議は5月20日(金)です

各会が、報告を持ち寄り、お互いに問題点を指摘・アドバイスをしあって、事故を未然に防ぐための方策を考えたり、他の会の経験を学びあう場です。

【と き】 5月20日（金）19:30～

【ところ】 県連事務所

【持参物】 各会は、合宿報告書1件につき、30部コピーして持参して下さい。

春山合宿計画一覧(4月15日春山合宿遭対連絡会議提出分)

山岳会		山域	コース	日程	人数	備考
あつた		北ア	上高地～涸沢往復(雪訓)	5/3-5/5	10	
犬山マップ		北ア	室堂～雷鳥平～立山三山縦走、奥大日岳	4/30-5/2	4	
春日井峠		奥秩父	日向大谷～両神山往復	5/7-5/8	17	
じねんじょ		南ア	夜叉神の森～鳳凰三山往復	5/3-5/5	10	
名古屋ありんこ		北ア	上高地～槍ヶ岳往復	5/3-5/5	5	
名古屋山岳同志会		北ア	上高地～徳本峠～霞沢岳往復	4/28-5/1	5	
名古屋山歩会		北ア	上高地～槍ヶ岳、飛騨沢・槍沢山スキー	4/28-5/1	3	天候により 5/2-5/5に変更
半田ファミリー	A	鈴鹿	鞍掛峠～鈴ヶ岳～御池岳～藤原岳～竜ヶ岳～石樽峠	4/23-4/24	17	
	B		石樽峠～三池岳～釈迦ヶ岳～根の平峠～ハライド～朝明駐車場	4/30-5/1	20	
	C	北ア	上高地～岳沢～前穂高岳往復	4/29-5/1	7	
東三河	A	北ア	新穂高～西穂山荘～丸山往復	4/29-4/30	4	
	B	九州	阿蘇山、祖母山、久住山	4/30-5/3	5	
	C	北ア	室堂～剣沢～源次郎尾根～剣岳～別山尾根(or平蔵谷)剣沢～室堂	5/2-5/5	4	
	D	北ア	八方池～唐松山荘～五竜岳～遠見尾根	5/2-5/4	5	予備日5/5まで
若駒		北ア	猿倉～小日向のコル～双子尾根～杓子岳往復	5/2-5/4	4	

組織部

3月24日、第1回組織担当者会議を開きました

当面の課題はホームページの充実と県連紹介パンフの作成、一般向け登山講座

3月24日、第1回組織担当者会議が開かれました。議題は、①第43期組織部の課題の確認について、②一般向け登山講座の実施について、③大地震に対する義捐金などの支援取り組みについての3点。出席者は11山岳会13名でした。

【出席】白鳥・信原(くらら) 綿谷(峠) 足立(若駒) 江島(じねんじょ) 徳永(ふわく) 宮沢(みどり) 榊原(ありんこ) 臼井(ASC) 清水(あつた) 田中(東海) 平野・洞井(半田)

県連総会で確認された組織部の第43期方針は以下の7点でしたが、それに沿って具体化について話し合いました。

- ① 2000名の県連づくりをめざします。
- ② 「一般向け登山講座」を実施し、成功させます。
- ③ 担当者会議の定期開催と結集、充実を追及し、会運営、会活動の活性化を図ります。
- ④ 隔月の各会会員数の把握と状況分析をし、組織拡大に取り組みます。
- ⑤ 平和行進に取り組みます。
- ⑥ 県連ホームページの充実、更新を行うとともに、さらにまだ未開設の会のホームページ設置を促します。
- ⑦ 紹介パンフレットの積極的な有効活用をおこないます。

(1)組織担当者会議メンバーの連絡網作成について

- ・基本的にメールで連絡を回すようにしたい
- ・それぞれの課題に担当者を決めて確認し合える状況を作りたい
- ・組織拡大については、独自にプロジェクトを立ち上げたい。組織担当者会議にただ集まるのではなく、会員拡大のための情報共有のために、各会と情報をやりとりしたり、「耳より情報」を流したり、課題へのとりくみをお願いする複数の「核」が欲しい。

(2)2000名の県連づくり = 各会の会員拡大 について

まず、ここ10年間の各会の会員数推移について、資料をもとに認識の共有をはかり、当面、減少した会員数をもとに戻せるような取り組みをすることを確認しました。

具体策1)毎月末の会員数調査

葉書による問い合わせと集約活動(他の方法はあるか?)⇒ メールでの確認

各会会員数

		2011年2月				2011年3月			
		男	女	計	増減	男	女	計	増減
1	あつた勤労者山岳会	48	26	74	3	48	26	74	0
2	アリス山の会	3	4	7	0	3	4	7	0
3	犬山勤労者山の会マップ	25	38	63	1	25	38	63	0
4	おやこ山の会	3	6	9	0	3	6	9	0
5	春日井峠の会	25	16	41	0	25	16	41	0
6	かわせみ山楽会	6	3	9	1	5	3	8	-1
7	じねんじょ山の会	17	19	36	2	19	19	38	2
8	昭和山岳会	10	14	24	0	10	14	24	0
9	スルジェ山の会	16	16	32	-2	16	16	32	0
10	中央アルパインクラブ								
11	ちんぐるま	4	3	7	-1	4	3	7	0
12	東海山岳会	26	4	30	1	26	4	30	0
13	名古屋ありんこ山岳会	14	7	21	0	13	6	19	-2
14	名古屋ASC	19	20	39	-1	18	20	38	-1
15	名古屋山岳同志会	28	16	44	0	28	18	46	2
16	名古屋山歩会	17	8	25	0	17	8	25	0
17	半田ファミリー山の会	31	44	75	-1	31	43	74	-1
18	東三河山ぽ会	86	84	170	1	86	84	170	0
19	低い山を楽しむ会	10	6	16	0	10	6	16	0
20	ふわく山の会	149	164	313	-4	146	162	308	-5
21	みどり山の会	8	18	26	0	7	18	25	-1
22	山の会「くらら」	43	19	62	-1	41	19	60	-2
23	若駒山岳会	10	3	13	0	10	3	13	0
	合計	598	538	1136	-1	591	536	1127	-9

具体策2) 県連紹介のパンフレット発行、配布 /
作成(完成・納品)は4月。配布体制を

具体策3) 一般向け登山講座の実施/議題②とも関わって

『岳人』『山と溪谷』『登山時報』の5月号に掲載。中日新聞にも告知掲載。
ホームページは県連、加盟山岳会、ヤマケイジャーナル、山リータ、etc
実施については、申し込み状況の確認、テキストの印刷、当日の受付、受講料の管理、
事務処理、登山学校コーチ、スタッフ、との共同作業

具体策4) 県連および各会のホームページの充実、更新

⇒ASCのUさんの担当申し出があり、お願いしました。すでにブログは大幅に改定され、

見やすく素晴らしいものになっています。加えて最新の情報が反映されています。

具体策5) 各山岳会の活動状況の点検と会員拡大に向けた取り組みについて報告を出し合いました。報告された取り組みは以下のようなものです。

- ・東海山岳会…目標を決めて組織拡大に取り組むことを確認(当面5名)
- ・くらら …拡大を狙いとして4/9に一般登山者講習会 4/17体験山行を予定
- ・ふわく …年間100人の会員増をはかりたい(幹事会決定事項。総会で提起)
- ・じねんじょ…「中にホームニュース」に毎月、会員募集記事を掲載している
- ・半田F …「会創立30周年を100人で迎えよう」という呼びかけ

(3)大地震に対する義捐金などの支援取り組みについて

各会のとりのくみの現状について報告し合ったあと、愛知県連としては、すでに支援本部が立ちあげられている全国連盟の呼びかけに、各山岳会ごとにとりまとめて応える取り組みをしよう、ということを確認しました。

婦人部

「第1回女性のつどい」を開催しました

【出席者】鈴木・佐々木(春日井峠) 辻村・保田・鈴木浩(ふわく) 平尾(熱田) 森(アリス) 西尾・美和(くらら) 山中(半田F) 小川・下山・二宮(みどり) 6山岳会13名

4月7日(木)「第1回女性のつどい」を開催しました。年度はじめということで自己紹介をしてから、総会で承認された今年度の方針をみんなで確認しました。

《婦人部の位置づけ》

会員の半数以上が女性。その女性会員が自分たちの登山する条件を広げ、山に登りたいという要求をどう実現していくか。それらを実現していくための手段として、会員同士が横のつながりを強くし、自分たちの登山に役にたちそうな知識や技術を(山の技術だけでなく、日常生活や健康、その他もろもろ、なんでもあり)みんなで学習したり、実際の登山の中で生かしたりしていく活動を考え実現していく。

【今年度の活動について】

1. 毎月女性のつどいを開催します
2. 各会の女性会員とのネットワークを作り、全会からの参加者を得て交流の輪を広げます
3. 婦人部交流登山を実施します
続いて「女性のつどい」「交流登山」の日程と内容について話し合い、次のように決め

ました。

月 日	内 容	担 当
2011. 4. 07(木)	活動計画とネットワーク作り	
5. 19 (木)	読図の学習と実習 室内で学ぶコンパスの使い方 ・平和行進(6/4)に参加を！	講師：鈴木浩(ふわく)
6. 16 (木)	講演：事件事例に学ぶ 事故報告と応急処置と保険	講師：未定
7. 1(金)	講演と実習：反射神経とバランス 力を鍛える	講師：稲垣寿美恵先生 担当/森
9. 08(木)	交流登山の実行委員会1	全会から実行委員会に参加をお願いします。
10. 06(木)	交流登山の実行委員会2	
11. 10(木)	交流登山の実行委員会3	
11. 19～20(日)	婦人部交流登山・・・参加者数・50名以上	登る山・未定
12. 08(木)	交流登山の反省会・打ち上げ	
2012. 1. 19(木)	山の料理を食べて、婦人部の活動 の総括と方針作り	☆料理集の作製 担当/西尾 各会からお勧め料理のレシピを
2. 16(木)	読図	講師：鈴木浩(ふわく)

4. 婦人部の活動の輪を広げるために、ネットワークづくりをします。

11月の交流登山には全会から実行委員を出していただけるように働きかけます。冊子「婦人部の活動」を全会に送り、婦人部の活動を知ってもらい参加を促していきます。

「東日本大震災で被災された中村公仁子さんへ支援を！」と、アリスの森さんから呼びかけがありました。かつて婦人部主催の救急法の講習会で講師をしてくださった中村さんが、このたび石巻で被災されました。山の仲間として支援するために募金にご協力ください。5月のつどいに各会で集めて持ちよることにしました。

次回の女性のつどいは、5月19日(木)19時からです。内容は、読図の実習です。

持ち物は、筆記用具、コンパス(磁石)、30センチ以上の物差し、資料代200円です。

昨年度の婦人部の『活動のまとめ』ができました！

第42期の婦人部の活動をまとめた冊子(48頁)を発行しました。講演、実技、交流山行など、昨年一年間に開かれた「婦人部のつどい」の内容を詳しく紹介しています。手作業で作成した冊子で、部数はそれほど多くありませんが、各山岳会に一部ずつ配布させていただきました。ぜひ、目を通して、各会のみなさんに婦人部活動に興味・関心をもっていただき、取り組みに参加していただけることを願っています。

スケジュール

4月			5月			6月		
1	金	遭対担当1	1	日		1	水	
2	土		2	月		2	木	清掃登山実行委員会5
3	日	登山学校 理論1	3	火		3	金	教育担当2
4	月	登山学校 理論2	4	水		4	土	
5	火		5	木		5	日	鈴鹿清掃登山
6	水		6	金		6	月	登山学校 理論9
7	木	女性をつどい1	7	土		7	火	
8	金	理事会3	8	日	登山学校 実技C3	8	水	
9	土		9	月	登山学校 理論5	9	木	清掃登山実行委員会6
10	日		10	火	一般向け登山講座 理論3	10	金	理事会7
11	月	登山学校 理論3	11	水		11	土	一般向け登山講座 実技2
12	火	教育担当1	12	木	清掃登山実行委員会3	12	日	登山学校 実技C5
13	水		13	金	理事会5	13	月	無雪期救助訓練 机上
14	木	清掃登山実行委員会2	14	土	一般向け登山講座 実技1	14	火	一般向け登山講座 理論6
15	金	春山合宿遭対連絡会議	15	日	登山学校 実技M2	15	水	
16	土	春の御在所岳水質調査	16	月	登山学校 理論6	16	木	女性をつどい3
17	日	登山学校 実技1	17	火	一般向け登山講座 理論4	17	金	遭対担当2
18	月	登山学校 理論4	18	水		18	土	
19	火	一般向け登山講座 理論1	19	木	組織担当3 女性をつどい2	19	日	無雪期救助訓練 実技
20	水		20	金	春山合宿遭対報告会議	20	月	確保技術講習会 机上
21	木	組織担当2	21	土		21	火	
22	金	理事会4	22	日	登山学校 実技C4	22	水	
23	土		23	月	登山学校 理論7	23	木	
24	日	登山学校 実技C2	24	火	一般向け登山講座 理論5	24	金	理事会8
25	月		25	水		25	土	救急法講習会
26	火	一般向け登山講座 理論2	26	木	清掃登山実行委員会4	26	日	確保技術講習会 実技
27	水		27	金	理事会6	27	月	登山学校 理論10
28	木		28	土	登山学校 実技M3	28	火	
29	金		29	日		29	水	
30	土		30	月	登山学校 理論8	30	木	
			31	火				

労山愛知締切:5月20日

ご意見・ご要望・投稿などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com